

津大豆ニュース 令和6年産作柄報告版

令和7年3月26日

津地域農業改良普及センター

TEL:059-223-5103

1 概要

(1) 生育経過（乾燥の影響による生育の停滞が見られた）

播種作業について、サチユタカA1号は6月中旬から、フクユタカは7月上旬から開始されました。7月中旬以降は降雨が少なく、播種作業は順調に進められました。7月上旬までに播種したほ場では、適度な降雨があり出芽や初期生育が良好となりました。一方で7月中旬以降に播種したほ場では、7月下旬からは降水量が少なくなり、乾燥による出芽不良や生育の停滞が見られました。8月下旬には台風の影響により降水量がかなり多く、生育量の小さいほ場や水が溜まりやすいほ場では湿害が見られました。

サチユタカA1号で開花期は8月中旬、落葉期は11月上旬、フクユタカで開花期は8月下旬、落葉期は11月下旬からとなりました。

(2) 収量・品質（昨年度より減収し、過去数年でも低いレベル）

収量は、栽培条件や栽培管理による生産者間での差が大きくなりました。管内の平均単収は40kg/10a（昨年度64kg/10a）と低単収となりました。過去5年と比較して低い年となっています。乾燥や吸実性カメムシ類の被害による青立ちや、湿害やハスモンヨトウによる被害により扁平粒やクズが多く、小粒傾向となりました。1等比率は22%と昨年の36%より低くなりました。

(3) 病害虫（ハスモンヨトウ、吸汁性カメムシ類が昨年に続き多発）

8月下旬からハスモンヨトウが多発し、白変葉の発生が多くなりました。発生量が多い状況が9月末まで続き、葉がほとんど食害されるほ場も見られました。吸実性カメムシ類においても8月下旬から多発し、10月以降も発生が見られ、防除が不十分なほ場では青立ちが多く減収や品質低下の要因となりました。

2 次作以降の対策

(1) 適期播種

フクユタカの播種適期は7月上中旬です。早めの準備を心がけて、適期に播種作業を行いましょう。麦収穫後、すみやかに明渠の修繕を行い、雨水が停滞しないよう排水対策に努めましょう。近年、7月に雨が続いて適期に播種ができないことが多いため、晴れ間を見て作業できるように準備を進めましょう。

(2) 播き遅れ対策

播種時期が7月下旬以降となる場合は、播種量を2割程度増やしましょう。条間を40cm程度の狭畦にして播くか、株間をできるだけ狭くして播種量を増やしましょう。

注意：狭畦播種すると中耕培土ができないため、除草剤での雑草防除が主となります。

播種後の土壌処理剤と雑草発生後の茎葉処理剤により防除を徹底しましょう。

(3) 土壌診断、土づくり

土壌診断を播種前（できれば麦立毛中）に実施し、酸度矯正や不足する養分を補うため、土壌改良材等を施用しましょう。

また、麦稈の鋤込みによる窒素飢餓を回避するため、石灰窒素を10a当たり10～15kg施用すると有効です。

(4) 病虫害対策

近年、ハスモンヨトウの発生量が増加しています。若齢期は葉の表皮を残して食害するため、白変葉となります。中齢期以降はほ場内で分散し、葉や若い莢を食害します。中齢期以降の幼虫には効果が低いため、若齢幼虫の被害である白変葉が発生時に防除を実施しましょう。（若齢期の幼虫発生ピークである8月下旬から9月上旬が目安）

ミナミアオカメムシ等の吸汁性カメムシ類の発生が増加しています。吸汁性カメムシ類は大豆の子実を吸汁し、未熟粒の発生や不稔莢等の原因となります。防除は開花後20日(莢伸長期)と開花後40日(子実肥大中期)の2回実施しましょう。（7月上中旬に播種したところでは9月中旬と10月上旬、7月下旬播種のところでは9月下旬と10月中旬頃が目安）

(5) 中耕培土

中耕培土作業の有無が大豆の生育に影響します。土壌の通気性を良くし、根粒の着生を促すとともに雑草防除の効果もあります。狭畦栽培の場合を除いて、播種後20日から40日位の間に1～2回実施しましょう。

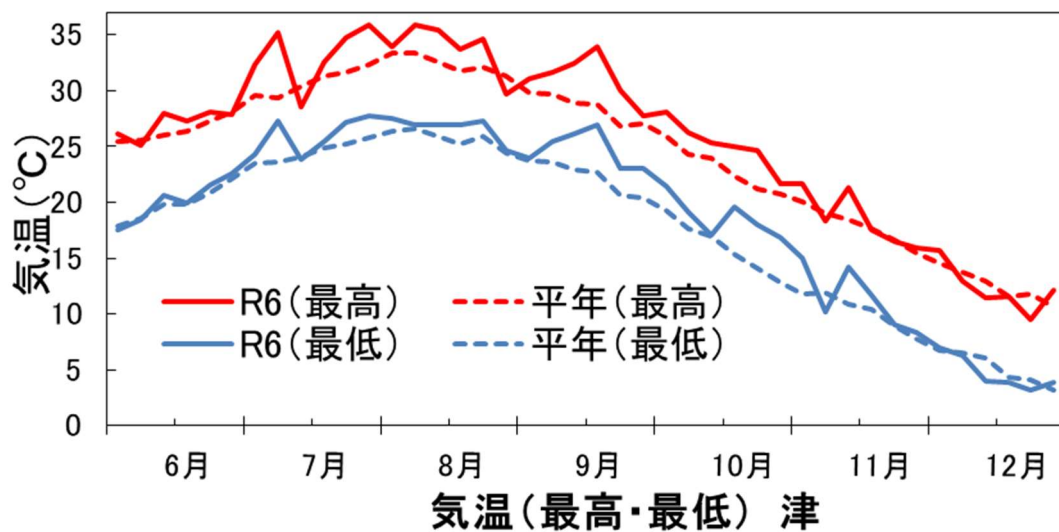
(6) 雑草管理

帰化アサガオ類、ホオズキ類等の強害雑草の発生が一部ほ場で見うけられます。茎葉処理除草剤の適期散布や中耕により、雑草の発生・生育を抑えましょう。また、生育ステージ後半まで残ってしまった雑草については、収穫までに手で抜き取り、抜き取った雑草は、畔やほ場内に放置せず処分しましょう。

3 参考資料

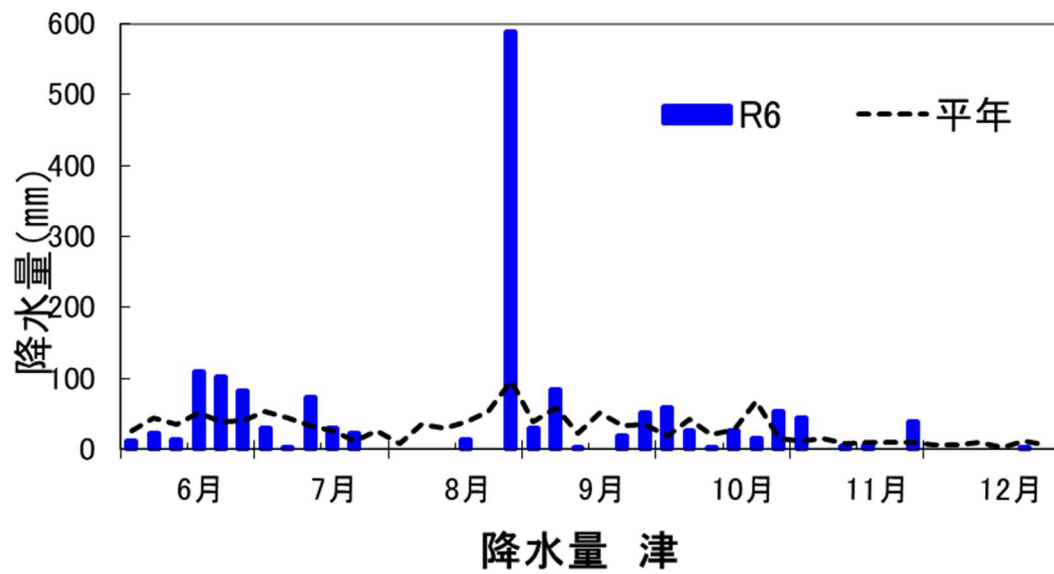
(1) 気温

生育期間を通してかなり気温が高くなりました。



(2) 降水量

6月中旬から下旬は降水量が多くなりました。7月下旬から8月下旬はほとんど降雨がありませんでしたが、8月末には台風の影響により降水量がかなり多くなりました。



(3) 日照時間

7月下旬から9月にかけては概ね平年よりも日照時間が多く推移しました。10月中旬から11月中旬は降雨や曇りの日が多く、日照時間が短くなりました。

